



東京八王子プロバスクラブ

創立1995年10月18日

プロバスだよ

第153号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2008年8月14日発行

編集・発行：情報委員会

2008～09年度テーマ

『学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて』

第153回 例会

- ・日時：平成20年7月10日（木）12:30～15:30
- ・場所：八王子エルシィ 3階
- ・出席者：67名 出席57名 出席率85%

1. 多村例会委員長の司会で開会
2. 会食(12:30～13:00)
3. 矢島会長挨拶



クラブ結成以来13年目の新しい年度を迎え、会員の総意と豊かな知識と経験を結集して、安全で快適なそして豊かで活力のある地域社会の

実現のため、本年度の運営を進めてまいりたいと考えております。テーマは「**学びそして発信しよう、より豊かな地域社会を求めて**」と致します。以下いくつかの基本的な事項について申し上げますので、会員皆様のご理解とご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い致します。

I、組織の活性化に向けた取り組み。

(1) 例会の活性化と会員研修の充実

例会の活性化と地域奉仕活動の充実を図るため、例会の場を活用し会員の地域に対する、より一層のご理解をいただくための、もろもろの課題について研修の機会を設けていきたいと考えております。

(2) 新規会員の加入促進

新規会員の確保に当たっては、現状の会員構成を考慮して、当面女性会員の加入を重点的に行い、男女共同参画社会を目指したバランスの取れたクラブ運営の実現を図っていききたいと考えております。

(3) 同好会活動の促進

会員相互の理解と親睦を図り、クラブ活動の円滑な進行を図るためにも、同好会活動を促進していきたいと考えております。

II、地域社会の活性化に向けた奉仕活動の取り組み

(1) 生涯学習サロンの内容の充実

生涯学習サロンの充実を図るため、新たな話し手会員の参加を求めるとともに、新しい講座の開設を図るなど、参加者の要望にこたえられるような魅力ある講座の構成や運営を図っていききたいと考えております。又、新規参加者の確保に向けて「一日体験参加」なども検討していききたいと考えております。

(2) 地域コミュニティ活動への参加

地域団体や住民が一体となって開催する、『いちよう祭』や『市民健康フェスタ』などには積極的に参加し、地域活動団体との交流や情報交換を通じて、プロバスクラブとしての地域活動に対する発信の機会なども増やしていきたいと考えております。

(3) 他のプロバスクラブとの交流

近隣PCとの交流の機会を増やすとともに、関東ブロック交流会の第二回開催に向けて、ホストクラブとして充実した内容の交流を図っていききたいと考えております。以上今年度の大きな課題について話をさせていただきました。

4. 臨時総会

多村例会委員長より臨時総会開催の宣言があり、恒例により矢島会長が議長に選出されました。

議長は、書記に東山栄会員、議事録署名人に浅川文夫会員と竹内賢治会員を指名し審議に入りました。

1) 前年度決算報告

第1号議案 前年度一般会計決算書

第2号議案 同活動準備金特別会計決算書

第3号議案 12回生涯学習サロンの特別会計決算書

上記3議案は関連しますので一括審議することにし、前年度執行部の山崎幹事より資料をもとに説明がありました。

監査報告

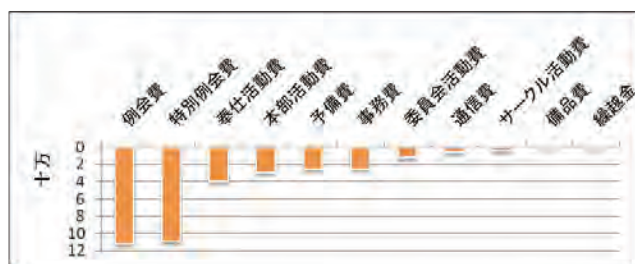
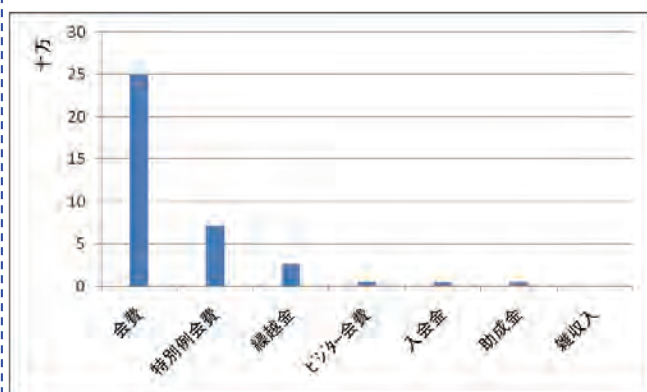
それらの監査結果について、松尾監事から相違がないという報告があり、了承されました。

その他、質問・意見も無く、上記3議案について会員に諮ったところ賛成多数で承認され、原案通り決定しました。

(2) 第4号議案 新年度一般会計予算書(案)と第5号議案 活動準備資金特別会計予算書(案)につき一括審議することで、新執行部の矢崎幹事より、資料に基づき説明がありました。その後、議長がこの議案につき会員に諮ったところ、賛成多数で承認され、原案通り決定しました。(予算案下図参照)

以上を持ちまして臨時総会は全て終了しました。

新年度予算案 グラフ



5. ご来賓の紹介と挨拶

東京八王子南ロータリークラブ会長の平野一男様と幹事の藤原仁様の紹介

平野会長のご挨拶



東京八王子プロバスクラブ会員の中には奇遇とも言えるような方や、お世話になった方々など沢山おりまして、自クラブに来ているような親しみがありませんというお話をされました。また、

2008～09年度の会長標語、地球温暖化ストップ 『環境保全で明るい街づくり』の話もしていただきました。ありがとうございました。

また、矢島会長より、平野会長から当プロバスクラブへ助成金5万円が贈られたことに対する御礼を述べられました。

6. 幹事報告 (矢崎幹事)



- ①会員動向 現在71名(休会4名) 実働67名
- ②上半期の会費と活動準備資金徴収のお礼
- ③今年度の各委員会構成メンバーの説明
- ④今期より名刺の肩書につ

いて説明

- ⑤青森(六ヶ所村他)研修について概略説明。

7. 新年度新委員長の活動方針

◇情報委員(長谷川委員長)

会長からお話がありましたように今期のテーマは、学びと発信が一つのキーワードになっております。学びとは学習したことだけでなく、感動したこと、発見したこと、創作したことなどたくさんあります。それを人に伝える喜びが発信でもあると思います。当委員会が毎月発行しております



『プロバスだより』は、身近な発信の場ですから、大いに活用して、会員の皆様に積極的な発信をしてください。『充実した情報を、広く正しく速やかに伝達する』を方針としました。情報委員一丸となって1年間取り組みますのでよろしくお願いいたします。

◇会員委員会(下田委員長)

本年度のメインテーマを『盤石な組織と更なる発展を目指して』サブとして、相応しい会員候補者の発掘とします。会員委員会の主な活動は会員の増強にあります。近年の会員の動向を見ますと、過去6年間で24名もの退会者がいる。平均すると年4名が退会しているのが本年度は最低現状維持の71名を目標に4名以上の新会員の入会を目指します。



会長の方針もありましたように女性の会員の増強も図っていききたいと思います。全員で取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

◇研修委員会(橋本委員長)

会長方針に沿い、会員の知的ニーズの充足と趣味の取得や交流を図っていくことを会の運営方針としていきます。



研修委員会の仕事の一つのキーに野外研修がありますが11月を候補に進めていきます。新しい試みとしまして、例会の場を利用しまして、2回ほ

ど外部から講師を招いて地域の活性化などの学習や会員の地域に向けた発信の機会を増やしてくことに取り組んでいきたいと考えております。

卓話ですが、会員の自己紹介の意味もあるので、今まで活動してきた分野、体験してきたこと、あるいは趣味などから話題を選んで頂き、30分ほどのお話をお願いすることになります。本年一年皆様と一緒に頑張っていきますのでよろしくお願いたします。

◇地域奉仕委員会（澤渡委員長）

冒頭、心境を申すなら、重いお役を頂戴いたしまして、戦々恐々としております。一年、微力ではございますが努めてまいりたいと思います。地域奉仕を担当するにあたり、未来志向型クラブを目指していくビジョンを掲げたいと思います。また、



三つのキーワードを考えてみました。一つは『親睦』であり、二つは『奉仕』、三つ目は、少しずつ壊しながら、新たに創り上げる『創造』の言葉を心に刻みながら考えていきたいと思ひます。

具体的活動目標としては、

1) いきいきとした委員会活動

風通しのよい、明るい委員会を目指していきます。

2) 生涯学習サロン 内容の充実

問題の一つに一般会員数の伸び悩み、受講率の低迷の傾向があります。この原因を探り、この壁を乗り越えていきたいと思ひます。

3) 生涯学習サロン 業務・経費の効率化・簡素化・改善努力をしていきたいと思ひ、委員会の中に業務効率化改善委員会をつくり取り組んでいきたい。

4) いちよう祭への参加

5) 2~3年先を見据えた地域奉仕活動のあり方の模索をしていきたいと思ひます。地域奉仕として、生涯学習サロンだけで良いのか、これだけの知識と経験と情熱を持っているクラブですので何か他に奉仕の方法がないのかなどアイディアに終わらず行動力を伴う意識をもって取り組んでいきたいと思ひます。皆様のお力をお借りして少しでもよりよい地域活動が出来ればと思ひます。

◇例会委員会（多村委員長）

例会は、会員相互の意思疎通を図るため、大事な場であるので、

- 1) 交流を深め、楽しい例会とする。
- 2) 無断欠席を排し無駄のない例会を運営することに全員で取り組み、会員が気持ちよく参加



できる雰囲気を作っていきたいと思ひます。

活動方針としましては、

1) 当委員会の各人の役割分担を決め、全員が協力して、仲間意識を醸成していきます。

2) 例会の強化をするため、年に1~2回、例会の時間を延長して研修委員会が実施する全員学習をサポートして活発な討論の場を作っていきたいと思ひます。

本日の出席率は、実働数67人、内出席者が57名ですので、出席率は85%です。

8. 同好会報告

◆ 写真同好会（矢島会長）

7月24日（木曜日）『古代蓮の里と山百合の森』を訪ねる撮影会が行われました。9月例会時には、写真展示しますので、参加者はA4サイズで2枚提出ください。



◆ お茶の会（中野会員）

先ほど立川会員からも報告がありましたように、ドイツの音楽団員*1に対しての『お茶をもうてなす会』を進めております。8月28日（木）午後1時から3時までエルシー5階で行われます。協力をお願いします。お茶の会は服装規定あり。詳細は中野会員へ



日独交流演奏会は、8月31日午後2時から八王子市民会館で開催されます。

◆ 歴史の会（荒委員）

『歴史の会』の会長を澤渡さんから私が引き受けることになりました。よろしくお願いたします。7月11日からの六ヶ所再処理工場・三内丸山遺跡等研修委員会並びに歴史の会の合同旅行について説明がありました。



◆ IT塾（矢崎幹事）

8月は4日（月）・18日（月）に開催されます。暑いけれどがんばりましょう。



9. 各委員会打ち合わせ

（1時間ほど各委員会ごとと打ち合わせをする）

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会（下山副会長）



臨時総会ならびに新しい年度の最初の例会が皆様の協力を得て滞りなく終わることができました。ありがとうございました。健康に留意して8月も元気に集まりましょう。

六ヶ所村訪問記（H20. 7. 11）

・原子燃料サイクル施設見学

六ヶ所原燃P Rセンターの3階で、眼前に広がる原子燃料サイクル施設と国の石油備蓄基地、それに周囲に林立する風力発電設備を望遠すると、第三次オイルショックが進行している現在、エネルギー問題がまさに身近に迫ってきているとの思いを実感する。

全国の原子力発電所で発生する使用済燃料を集めて再処理し、生成されたプルトニウムにウランを混ぜて、混合酸化物(MOX)燃料を作る再処理工場が稼動間近だ。2010年には16～18基の原子力発電所でMOX燃料を使う「プルサーマル」が計画されている。この使用済燃料をリサイクルして使う「原子燃料サイクル」が円滑にまわり、さらに福井県の高速増殖炉「もんじゅ」の研究開発が進むならば、輸入依存度の高いわが国において、エネルギーの長期安定確保が可能になるに違いない。

P Rセンターで概要説明を受けた後、時間の関係で、バスに乗って、濃縮工場の外観、低レベル放射性廃棄物処分施設などを見学した後、本命の再処理工場では、海外から返還された高レベル廃棄物(ガラス固化体)の貯蔵施設や工場全体の中核である中央制御室の中に入って、現場の状況を直接目にした。素人の我々には、詳細は理解出来ないものの、この工場が、人体に影響を及ぼすような放射線は絶対外部に放出しないという安全設計の思想に基づいて設計され、運転されるという基本的な考え方は十分理解できたように思う。

・六ヶ所プロバスクラブとの交流

原子燃料サイクル施設を見学した後、この六ヶ所村の温泉施設「ろっかぼっか」で4月に設立されたばかりの「六ヶ所プロバスクラブ」の皆さんと、昼食を共にしながら交流をさせて頂いた。

(写真右下) 佐々木正会員提供

宮崎浩平前会長は、「私共の歴史の会が三内丸山遺跡の研修旅行を企画したところ、佐々木正会員から折角の機会なので、六ヶ所村も訪問してはとの提案があり、それは良いね、原子力の利用にいろいろな意見はあるが、見ないで意見を云うのは如何なものかと思い大勢で伺った」と来意を述べる。

村の開発に多大な貢献をされた元村長で、六ヶ所P C会長の土田浩氏は、「六ヶ所村は、かつては何の変哲もない村で、農業と漁業だけの田舎でした。そこにむつ小川原開発という国家プロジェクトの中で、国の石油備蓄基地を誘致し、その後、皆さんがご覧になった原子燃料サイクル施設が建設され、また風力発電設備を

つくるなど、エネルギーと深い関わりのある村に変わりつつあり、さらに現在では、国際熱核融合実験炉(ITER)関連施設の建設準備も始められている」と現況を紹介。「原子力は、広島、長崎の原爆の影響を引きずって、一般に、危険なもの、怖いものというイメージがあるが、村内の多くの地点で環境モニタリング(放射線の測定)を行っており、国の基準よりも十分に低いデータが得られています。また村の若い人多数がこのことをよく承知して原燃施設で働いている」ことなど、村民サイドから見た施設の安全確保に対する考え方について説明があった。

原子力エネルギーの問題については、「多くの方々は、わが国ではこれから原子力に依存しなければエネルギー確保がままならないと判っていながら、誰かが、何処かで、何とかするだろうと考え、都会の方々は、どこか田舎の危なくない処でやってほしいと思っているのが本音でしょう」「高レベル処分地の選定など何とかするには、地域と事業者とが一体となって知恵を出し合い、より強固な信頼関係を築くことが大切です」「需要地の方々も生産地、立地地域の思いをもっと考えていただければ…」と、言外に長い間のご苦労を語る。

将来への想いは「いずれは日本ばかりでなくアジアの国々に、原子力や核融合の技術で主導的な役割を果たせる地域にしたい。海外からの技術者を養成する学校、大学などをつくって、多くの人の集まる、地球規模で役に立つような村にしたい」と夢を語っていただいた。

立川富美代全日本プロバス協議会副会長からは、六ヶ所プロバスクラブ創立のお祝いが述べられ、クラブの活動は、人数の多い少ないではなく、プロバスの精神を守りながら、地域に密着した活動が大切であり、末永く交流させていただきたいとの挨拶があった。矢島一雄会長からは、八王子P Cの活動状況を今年13回目になる生涯学習サロンの内容を中心にご紹介させていただいた。

(記録 荒 正勝)



編集後記：新年度スタート、活動方針を主に載せました。
荒会員より、六ヶ所訪問記の寄稿をいただきました。皆様の
発信をお待ちしています。 終